

# 『光があるうちに』 (ヨハネの福音書 12章 20-36節) 2022.5.29.

<はじめに>

## I この時に至った

### ①心騒ぐイエス(27)

あまり見かけないイエスの姿  
何と言おうか  
相反する思い

### ②時が来ました(20-23)

「時」を意識するイエス 「時」(23,27)、他に時と関連することばは？  
そのきっかけの出来事は？ 「すると」(23)  
「イエスにお目にかかりたい」

### ③厳粛な今の時(23, 27-33)

「今」(27,31)はクライシス(転機・危機)  
「すでに」「ふたたび」(28)  
「わたしが地上から上げられるとき」(32-33)

## II 一粒の麦

### ①一粒が何倍にも(24)

農業・栽培の不思議  
種が生きるなら一、死ぬなら一  
「死」をどう見るか

### ②永遠のいのちに至る(25)

自分のいのち  
いのちを愛する/憎む？  
行きつく先

### ③いのちの使い道(26)

仕える—自分以外のために自分を使う  
「わたし」とは誰のこと、どんな方か 「父」とはだれのこと、どんな方か  
「仕えるなら」 選択権はその人にある

## III 光の子どもになれるように

### ①天からの声(28-33)

雷？ 御使い？  
あなたがたのため(30)  
この世を真に支配する方がいる

### ②永遠の理解(34,25)

キリストはいつまでも生きる(イザヤ 9:7、エゼキエル 37:25、ダニエル 7:14)  
この世のいのちには限界がある  
死を越えた後に続くいのちがある

### ③光があるうちに(35-36)

もうしばらく光はあなたがたの間にある  
闇と光の関係 (ヨハネ 1:3-4, 3:19-21, 8:12)  
「自分に光があるうちに、光の子どもとなれるように、光を信じなさい」(36)

<おわりに> 今は私たちを照らし導く光なるキリストが輝いています。しかし、いつまでもそれが続くわけではありません。厳粛な終わりがやって来ます。まだ私たちに選択権が与えられている今のうちに、私たちが自分のいのちについて真剣に向き合えますように。(H.M.)